

# 産地戦略

実施主体 瀬戸内市  
 都道府県 岡山県  
 対象地域 瀬戸内市全域  
 対象品目 水稻

実施期間 令和7～11年度



## 新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

化学農薬の使用量の低減	● 温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

## 目指す姿

岡山県瀬戸内市は、令和3年2月にゼロカーボンシティ宣言を行い、2050年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロを目標としているものの、農業分野における地域にあった取組手法が確立できていない状況にある。

このため、基幹作物である水稻において、メタンガス発生抑制技術体系及びリモートセンシングによる適切な施肥・病害虫診断の検証を行い、環境負荷低減及び省力化を実現した持続可能な農業生産の確立を目指す。

## 現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	土づくりに有機物の施用		田植		水管理 施肥		収穫			土づくりに有機物の施用			
技術名					中干 種肥					わらすき込み 十石灰窒素			

## グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名			田植		水管理 施肥		収穫	土づくりに有機物の施用					
技術名					中干延長 種肥			秋 耕					

## グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R6	目標R11	備考
(参考) 対象品目の作付面積 (ha)	1,032	1,032	
グリーンな栽培体系の取組面積 (ha)	2	13	
環境にやさしい栽培技術の取組面積 (ha)			
省力化に資する技術の取組面積 (ha)			

## 環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

### 〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境	7日間程度の中干し 秋～春にかけてのわらのすき込み	▶ 中干し期間の延長+秋耕(11～12月にわらのすき込み+腐熟促進資材)	水田からのメタン排出削減
省力	ほ場での施肥・病虫害診断	▶ 衛星画像の解析データを活かした施肥等の診断	作業時間の削減

### 〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
省力	作業時間の削減 (分/10a)	<b>11</b>	▶ <b>10</b>	作業時間を9%程度削減
			▶	
			▶	
			▶	

\* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する  
(有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする)

\* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

### グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

中干し延長や秋耕（年内のわらのすき込み）について、栽培マニュアルの配布と講習会等で実証結果の説明により啓発を図る。

### 関係者の役割

関係者名	瀬戸内市振興公社	岡山県 <small>(普及組織：備前広域農業普及指導センター)</small>	岡山市農業協同組合	
役割	中干期間延長+秋耕の啓発・技術指導	中干期間延長+秋耕の啓発・技術指導	中干期間延長+秋耕の啓発・技術指導	